

# 小児作業療法と療育場面での OT 的関わりについて

ハビリテーション課

作業療法士 金田 実

## 1. はじめに

今回、リハビリテーションに係る職種の中でも何を行っているのかをイメージし難い「作業療法」及び「小児作業療法」の理念&治療・援助の具体的な内容を説明した上で、「不器用な子ども」を例にとり、療育場面で使える OT 的アプローチを紹介する。

## 2. 「作業療法」とは何か？

2004 年世界作業療法士協会連盟の定義では、「作業療法とは、作業を通して健康と幸福な生活の推進にかかわる職業である。作業療法の主目標は、人々が日々の生活の営みに参加出来るようにすることである。作業療法士はこうした成果を達成するために、人々が自らの参加能力の向上をもたらすような事柄に取り組めるようにしたり参加をよりよく支援するための環境整備を行ったりする。」と、述べている。具体的には、「作業」を治療手段として用いて、「作業療法では、基本的な運動能力から、社会の中に適応する能力まで、3つの能力を維持、改善し、「その人らしい」生活の獲得を目標にする。

その3つの能力とは①基本的動作能力（運動や感覚、知覚、心肺や精神・認知などの心身機能）②応用的動作能力（食事やトイレ、家事など、日常で必要となる活動）③社会適応能力（地域活動への参加、就労・就学）をいう。」（日本作業療法士協会ホームページより）この目標に向かって実施する職業人が作業療法士である。

## 3. 「小児領域の作業療法」の理念について

小児領域の作業療法士が担うべき理念としては、対象である“障がい”を持って生まれた子どもたち、および乳幼児期に“障がい”を受けた家族が「より良く生きるための（具体的な）可能性」を医療者の立場から“発見”し、“育み”、“援助す

る”ことを使命とする。作業療法士は子どもの障害特性を認識しながらも、子ども一人ひとりが持つ客観的な“発達の可能性”を信じ、子どもにとっての「作業」である「遊び」を主たる手段として関わり、子どもを取り巻く環境調整の一翼を担うものとする。

## 4. 「小児作業療法」士の具体的臨床行動

### i) 発達障害児に対して

- ① その子（発達障害）の行動特性（多動行動、奇声・色々な常同行動、特定の物へのこだわり、目と目が合わない、他児と遊べない、場に合わない行動、手の不器用さ等）の理由を保護者に説明する。
- ② 主訴の確認と「遊び」を用いてのレポートの確立。
- ③ その子が好きな遊びと、少し努力をすれば達成可能なプログラムを「遊び」として治療実施。（3～6ヶ月、月2～4回）
- ④ 半年後、再評価・変化点の説明、次の目標設定のための話し合いを実施し、関係機関との連絡等を計る。

### ii) 肢体不自由児に対して

- ① その子（肢体不自由）の疾患特性及びリハビリテーションを実施する留意点を保護者に説明する。
- ② 主訴の確認と身体遊びや玩具遊びを通じてのレポートの確立。
- ③ 疾患ごとに必要な身体機能面の評価後、その子が最も安静できる姿勢と手を使いやすい姿勢を評価・設定する。
- ④ 「遊び」を行う準備段階として、疾患由来の全身の筋緊張（硬い or 柔らかい）及び不随意運動（失調様 or アテトーゼ様振戦）を可能な限り正常に近づける。
- ⑤ その子が興味・関心を示す「遊び」等を用

いて、上肢の分離運動を引き出し、新しい感覚—運動経験をさせることで、自分で出来る自信を育てていく。

- ⑥ OT 場面で達成できたことを生活場面でも実施できるように関係職種との連携を計る。

## 5. 療育場面での OT 的関わりについて

発達障害児が示す「色々な不器用さ」について OT 評価とアプローチの方法を以下に紹介する。

### i) 原因から見た「色々な不器用さ」

- ① 身体運動発達未熟が主な原因であるもの
  - ・書字活動の際の手指および手首の握り込み、字の大小、筆圧の強弱等
  - ・鋏を真直ぐ切れない等
  - ・箸・スプーンを上手く使えない等
- ② 身体図式獲得未熟が主な原因であるもの
  - ・服の着脱がどうしていいか分からない
  - ・狭いところで身体をぶついたり、つまずく
  - ・ラケット等の道具操作が上手くできない
- ③ 感覚統合能力未熟が主な原因のもの
  - ・ボールをタイミングよく受けられない
  - ・ブランコや揺れる遊具を上手く動かせない
  - ・縄跳びが上手く跳べない等
- ④ 知的発達未熟が主な原因のもの
  - ・ひも結びが一人で出来ない
  - ・自分なりのこだわりのやり方・順番があり変えることが出来ない
  - ・いくつかの工程がある活動（調理・集団スポーツ・集団製作）だと、一つの工程終了毎に声掛け・指示が必要
- ⑤ コミュニケーション能力が主たる原因
  - ・言語指示だけでは実行できない
  - ・他の子どもと一緒に協力して行うことが苦手  
でマイペースで行おうとする
  - ・その場に合わない行動や発言をする
  - ・勝ち負けにこだわり、怒りを抑えられない

### ii) 具体的アプローチ

- ① 筋力の弱さへのアプローチ
  - ・徒手的抵抗運動・全身を伸ばす活動・重たい物の持ち運びや押し出し・階段昇降・腕

立て伏せ・トランポリン等

- ② 手の分離運動未熟へのアプローチ
  - ・指折り数唱・指遊びや手遊び・指組一対出しや指回し体操・コインを使った手内操作・折り紙・昔遊び（お手玉等）
- ③ 注意集中性の未熟へのアプローチ
  - ・自分でお片づけ・テレビやゲームの映像や音を遮断・カーテン等を使用して周囲の物や人の動きを見えなくする・今日の予定と終わりの時間を告げておく等
- ④ 運動企画能力の弱さへのアプローチ
  - ・二者選択・やりたいことを紙やホワイトボードに書き出し順番を決める・子どもにリーダーを取ってもらって遊びを行う
- ⑤ 感覚認知能力の弱さへのアプローチ
  - ・感覚統合遊具を用いて色々な身体の動きを楽しめるようにする・バランス反応を引き出すようなサーキットを楽しむ・乾布マサツやプール遊び等
- ⑥ 他者を模倣する力の促通アプローチ
  - ・子ども自身の動きを鏡やビデオで見せる・にらめっこ・他児をモデルにして見せてから遊ぶ・人形遊びやままごと遊び
- ⑦ 場面理解力の改善のためのアプローチ
  - ・作業や行事前に、写真やビデオを用いて活動内容の理解力を高める・言語理解が乏しい分実際に手や身体を動かして終わりまでの流れを経験させる・出来たことを誉める

## 6. まとめ

「作業療法」の概略と「小児作業療法」士の具体的臨床行動を説明し、「不器用な子ども」を例に具体的に OT がどのような評価をして療育場面で使える OT アプローチを紹介した。